５月号

県連ニュース

２００９年５月１日発行
栃木県勤労者山岳連盟

第１回　各会代表者　正副会長　理事　合同会議報告・・・１
09 年全国いっせいクリーンハイクアピール・・・２
第 6 期ハイキング楽校　第１２回実技山行～那須岳～・・・３
重大事故非常事態宣言・・・５
１２回自然保護講座・・・６

―栃木県勤労者山岳連盟―

第１回　各会代表者　正副会長　理事　合同会議報告

09 年 4 月 20 日（月）19:30～21:30　宇都宮市雀宮市民センター
当クラブ出席者：大森幹夫、橋田弘一、八木沢昌通、吉岡昌徳、茂田和雄

１．理事及び監事の補充と選任について
・茂田和雄（ＵＨＣ）が組織部担当理事、望月次夫、菊池栄治（野木）が自然保護担当理事に選任された。
・前理事であった小嶋利武（ＵＨＣ）が監事に選任された。

２．今年度事業の具体化について
１）県連加盟各会間の交流を図る為、下記の活動を行う。（組織部）
①ハイキング楽校のＯＢ会による谷川岳交流山行を 9/26～27（土日）に実施する。
②登攀技術の継承を目的として、9/20～23 に涸沢に於いて、登攀テント泊交流合宿を行う。その為、複数回の技術訓練及び交流会を実施する。
・第 1 回技術訓練及び交流会を足尾ジャンダルムにて実施する予定
※交流会(6/20 PM7:00～)、訓練(6/21 AM7:00 銅親水公園集合)
２）０９年度県連交流ハイキングを 11/15（日）に霧降・隠れ三滝～大山にて実施する。（ハイキング委員会）

各部局委員会からの報告と当面の予定
教育部
①山登り基礎講座（4/25）宇都宮森林公園にて実施予定（9:30～16:00）
②初級読図講習会（5/16）宇都宮森林公園にて実施予定（9:30～16:00）
③応急救急講習会（6/20）実施予定（10:00～15:00）場所は未定

栃木県勤労者山岳連盟　　発行責任者：増田俊男　　編集責任者：橋田弘一
321-0345 宇都宮市大谷町１１０９
http://www.geocitiesj.p/tochigirosan/

２）自然保護部
①足尾植樹祭（09.4.25～26）：各会は参加実績を県連に報告要
・県連救助隊が救護班として参加予定（銅親水公園8:00集合）
②クリーンハイク(6/7)：各会にて実施予定（実施結果を県連に報告要）
③登山道整備(6/6～6/7)：温泉ヶ岳付近にて実施予定
・6/6(土)金精峠Ｐに午前8時（宿泊者：新念仏平避難小屋泊）
・6/7（日）参加者は温泉ヶ岳登山道付近に合流
④全国自然保護交流集会（6.13～14）足尾にて実施予定（栃木県連主管）

４．その他
１）各会会報を相互配布について、理事会にて交換する。（各会７部準備要）
２）次回、第２回理事会　６月８日　午後７時３０分より（雀の宮地区市民センター）
以上

09年全国いっせいクリーンハイクアピール

日本勤労者山岳連盟は、全国の加盟組織が「全国いっせいにクリーンハイク」に取り組みはじめてから36年目を迎えました。
昨年の全国いっせいクリーンハイクは、４１都道府県の地方組織で４５７の山岳会・山の会・クラブで取り組まれ、３６０のコースに８５７３名に及ぶ方々が参加しました。そして回収されたゴミは１３トン以上にも及んでいます。
素晴らしい山岳自然を求め、山歩きを楽しんでいるときにゴミが捨てられ汚されているのは、登山の楽しみを奪うものです。豊かな山岳自然は国民の貴重な共有財産でもあります。
私たちは、美しい山岳自然の中で楽しい登山を続けるために、山を汚さないことにしています。そして、これから山歩きをされる方々が美しい山々を眺め、楽しい思い出がつくれるように、美しい山岳自然を守っていくために清掃登山をすることで登山者としての責任を果たすことが必要だと考えています。そのために、日本勤労者山岳連盟に加盟する全国の山岳会・山の会・クラブや一般登山者にも参加していただき、全国でいっせいクリーンハイクに取り組んでいます。
いつまでも楽しい山歩きができるように、登山者・ハイカーのみなさんに下記のようなご協力を呼びかけます。
記

１、山からごみを一掃するためには、捨てられているゴミを回収し、新たなゴミを捨てないようにすることです。そのためにはまず登山者や行楽客が「ゴミを捨てない、持ち帰る」というモラルの確立が必要です。
２、ゴミはゴミを呼びます。どんなにきれいになった山域でも清掃をつづけることが大事です。
３、すべての登山者が緑の番人・山岳自然を守る番人としての自覚を持って山歩きを楽しみましょう。
2009年6月1日

日本勤労者山岳連盟

第 6 期ハイキング楽校　第12回実技山行～那須岳～

～雪上歩行法、滑落停止法～

日　時：2009 年 03 月 12 日（日）　天気：快晴
コース：
野木役場Ｐ⇒大谷Ｐ⇒宇都宮 IC⇒那須 IC⇒那須大丸Ｐ・・・那須休暇村スキーゲ場上部・・・ ・・・那須大丸Ｐ⇒那須 IC⇒宇都宮 IC⇒大谷Ｐ⇒野木役場Ｐ ⇒大谷Ｐ⇒野木役場Ｐ

前回の赤薙山での雪山実技のテーマは「雪上歩行、耐風姿勢、滑落停止の基本訓練」だったのに 対して、今回は前回テーマの実技訓練に加えて、急傾斜や危険個所での確保技術の習得が目的である。 テーマは下記の３項目です。
（１）雪上歩行訓練（急傾斜のダイヤモンド歩行）
（２）耐風姿勢、滑落停止の訓練
（３）基本的ロープワーク（危険個所での確保訓練）

以下、ハイキング楽校生の感想文を読んでください

＜第１２回　実技山行「那須岳」感想文＞　　宇都宮ＨＣ　三村　武美

我々第 6 期楽校生は朝早く目的地に着いたが、駐車場は一面凍っていてアイスバーン状態である。普通に歩こうとして転倒する人も・・・。

早速、駐車場から安全確保のためアイゼンを着ける。（最初から安全意識がいかに大切か教えられる） そして、全員アイゼンの装着が完了すると恐る恐る慎重に駐車場を後にして訓練場所へ出発。 スキー場を越え間もなくすると、澄んだブルーの空と純白な雪の間に稜線が現れる。何ともいえない景色だ。

雪山訓練を辞めてその稜線まで登りたい衝動に駆られる。そう考えているうちに訓練場所へと着いた。 班別に別れ大貫先生の指示に従って練習を早速開始する。

雪上訓練を行うスキー場上部へ向かう

赤薙の時と比較して二、三日前に雪が降ったおかげで新雪に近い状態、訓練には絶好なコンディションだ。
最初は赤薙山で覚えたピッケルの使い方やアイゼン装着歩行の復習である。 直登歩行、そしてダイヤモンド登降やトラバース方法の練習を繰り返し行った。用は反復練習をして体で覚えさせるのが目的である。そして自分なりに分かったことはフラット歩行が基本であると・・・。 やがて歩行訓練が終わるとつぎは滑落停止の訓練である。
滑落停止の方法は多くのやり方があるがやはり自分にとって一番興味のあるピッケルを使った停止方法である。 これも先生のやり方を真似して覚える他にないので反復の練習をする。自分はこの方法に最も時間を取った。 しかし、ピッケルのピック部を雪面に刺しブレーキを掛ながら滑落しないようにと努力するが思う様には行かない。 又、雪山の機会を作って身の安全のために練習をしたいと思う。

硬雪での滑落停止訓練
（ピック打ち込み）

午前の部はこれで終了。昼食を簡単に済ませ、メンバーが集まった所で弱層テストと呼ばれる雪崩が発生する 原因を確認する方法だ。

雪の硬い部分と軟らかい部分の層が何層にもなっているのを見るのは初めてである。 実際にも触って見た。自然現象には本当に感心する。

次はいよいよロープを使ってのビレイ方法だ。 先ず練習前に先生が実際にピッケルを使っての支点作りやロープの結び方、カラビナやスリングの活用の仕方を を見て、今度は自分で実際にやらなければならない。一人でロープを担いで直登する。

しかし、イザやって見ると思うように出来ない。自分自身に腹が立つ。その内先生から 「滑落するぞー」と大きな声がかかる。余計にパニックになって益々確保のやり方が思い出せない。しばらくすると先生も見かねて親切に教えてくれた。 そんな事を何回か繰り返ししているうちにどうにか出来るようになった。

ロープを使った確保の仕方で思った事は一歩間違えると命取りになる可能性があると言う事だ。 たとえばピッケルを雪の中に刺して支点をとる場合、雪の状態を確認して方法を変更するなど、 基本を守らないと支点が抜けてしまって大変な事になる。実際やってみると抜けてしまい、滑落決定という ことも経験した。 夢中で練習をしていると時間の経つのも非常に早く感じられる。もう練習している場所はすでに日が陰っていた。

訓練が終了し、スキー場上部から下る

以上の訓練が終了して考えさせられた事は、 朝の駐車場ではないが危険と思ったら素早く確保体制する。 滑落停止の確保は素早く出来ないといけない。 ケースバイケースで確保の仕方が異なるなどである。

最後に大貫先生と格リーダーの皆様には親切に確保の技術を教えていただき大変有難うございました。 次回の北アルプス山行までにはもう少し上達出来るよう努力したいと思います。

重大事故多発する現状を受け非常事態宣言

2009年4月15日
全国連盟遭難対策部部長
井芹昌二

2009年3月末日にて行方不明2件3名、死亡事故3件3名の事故の報告を受けた。
わずか3か月間に起きた重大事故の数は異常事態である。

2009年重大事故の内容は次の通りである。

① 1月4日、北海道・無意根山（1460m）で道央地区連盟の女性会員（61歳）が下山時にパーティとはぐれ、単独行動となり視界不良のため雪庇を踏みぬき5～6m滑落する。本人からの携帯電話連絡で生存が確認されたが、悪天候のために救助された時には死亡していた。

② 1月11日12日、長野、山梨県境・鋸岳（2685m）にて東京都連盟男性会員（43歳）が11日、単独で鋸岳へ入山する。予定日を過ぎても下山せず、13日よりヘリによる捜索、会のメンバーによる捜索が行われたが確認できず行方不明となっている。

③ 3月10日　群馬県谷川岳俎嵓山綾で群馬県連盟の男性会員2名（57歳）（53歳）が下山せず捜索を行ったが見つからず行方不明となっている。

④ 3月18日兵庫県六甲山系・蓬莱峡で大阪府連盟の男性会員（67歳）が18日午前9時ごろ大屏風取り付きで発見される。事故現場状況からフィックスロープをセットし、単独で登攀し、懸垂下降中に何らかの原因で滑落したと推測される（目撃者なし）。検視の結果から死亡推定時間は困難である。

⑤ 3月29日　長野県八ヶ岳山麓・角木場で東京都連盟の男性会員（49歳）がアイスクライミング訓練、トップロープのセット後、懸垂下降で何らかのミスが生じてグランドフォールしたと推測される（目撃者なし）。

労山内での死亡・行方不明者は上記であるが、最近では元会員の死亡事故、重大事故の報告もある。重大事故に繋がりかねない危険要素を含んだヒヤリハット（インシデント）はかなりの数があると予想される。事故の状況が明確なものについては早急に分析をおこない、二度と同じ間違いを繰り返す事の無いように早急に対策を講じていただきたい。

行方不明者については会を中心に捜索が続けられ、遭難の原因がいずれ明らかにされることと思う。

各都道府県連盟・各会の遭難対策担当者は非常事態を全会員に「対岸の火事」では無いこと知らせていただきたい。

「重大事故は決して起こさない・起こさせない」

◎単独登山は控えよう　　◎天候判断は的確に

◎確かな技術・体力を　　◎登山計画は綿密に

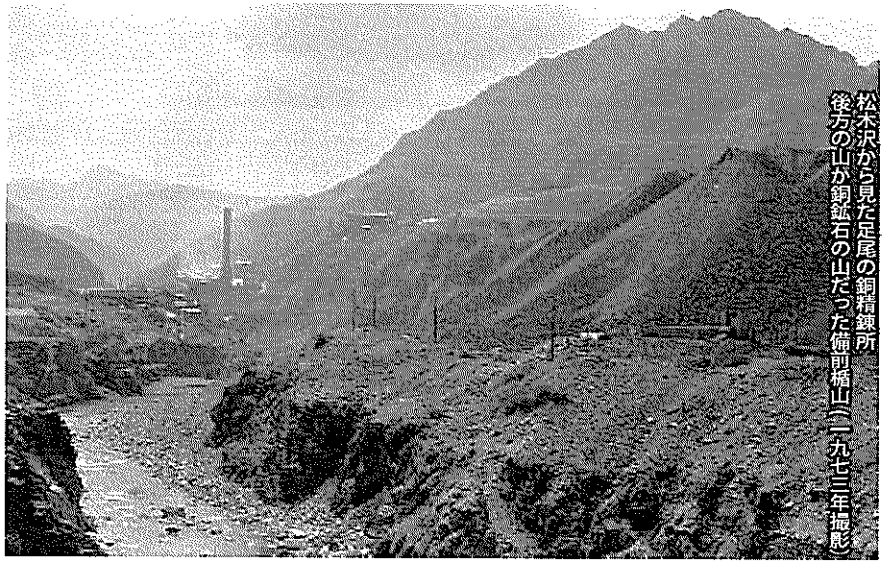
第12回自然保護講座

主催＝日本勤労者山岳連盟
自然保護委員会

足尾の山の歴史……。そして、いま……。

足尾銅山が閉山になって36年目を迎えます。その当時の足尾の山々には緑がなく、ガレバになっていました。足尾銅山閉山後、足尾の山々に緑をよみがえらせようと、心ある人々の努力によって徐々にではありますが山には緑が見えるようになっています。

今回の自然保護講座では、山岳自然が人為的に破壊されてしまったら、今日の技術をもってしても大変な努力と時間が必要であることを知ることによって、山岳自然がどれだけ大事であるかを改めて学ぶ機会にできればと考えています。自然保護講座参加者による足尾の山への記念植樹も行うことにしていますので、会員が積極的に参加されるよう案内します。



松木沢から見た足尾の銅精錬所後方の山が銅鉱石の山だった備前楯山（一九七二年撮影）

◎日　　程＝09年6月13日（土）午後 1時より
14日（日）午前12時まで

◎学習場所＝日光市足尾町「足尾環境学習センター」

◎講　　演＝「よみがえれ、足尾の緑」
講師 神山 英昭氏（足尾に緑を育てる会会長）

※この他に、銅山閉山直後の足尾の風景写真など、パワーポイントを使って説明します。
また、講座参加者による足尾の山への植樹。銅山の山として知られる「備前楯山」に登って足尾の山々の説明を行います。
参加者は、所属する会に登山計画書を提出てください。

●参加費用＝宿泊費など、8000円（1泊2食付き懇親会費及び資料台含む）
※日帰り参加者は、資料代として1000円いただきます。

●定　員＝30名（宿泊者のみ）

●申込方法　メール iwaf@jwaf.jp または、ファックス　03-3235-4324
氏名、住所、電話、所属会名と「第12回自然保護講座申込」と記載して申し込んでください。